

道立高等学校の生徒の北海道大学への派遣・交流事業

1. 目的

道立高等学校の生徒を北海道大学に派遣し、同大学の留学生との英語による交流や、大学の講義の受講、研究室訪問等を通して、英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、国際的な視野を育み、海外と積極的に交流しようとする意欲の向上を図る。

2. 主催

北海道教育委員会、国立大学法人北海道大学

3. 実施時期

令和元年(2019年)10月23日(水)～25日(金)

4. 実施場所

北海道大学 遠友学舎ほか

5. 参加者

全道の道立高等学校15校から29名(1年18名、2年11名)が参加

6. 日程

	時 間	内 容
1 日目	14:00～14:30	開会式・オリエンテーション・自己紹介タイム
	14:30～15:30	北海道大学キャンパスツアー
	15:45～17:15	学部生による留学経験発表
2 日目	9:10～10:10	大学院生による留学経験発表
	10:30～12:00	留学生が受講する日本語授業への参加・留学生との交流
	12:00～12:45	昼食(構内の学食)
	13:00～14:30	大学の講義(多文化交流科目)体験
	14:45～17:00	グループワーク
	17:10～18:00	夕食(構内の学食)
	18:15～19:45	国際インターンシップ報告会参加
3 日目	9:30～11:00	留学生による日本での生活や研究に関する講演、研究室訪問
	11:10～12:00	まとめ・閉会式

事業の様子

1日目・10月23日（水）

開会式が行われ、主催者である北海道大学・北海道教育委員会の挨拶、オリエンテーション、グループでの自己紹介を行いました。その後、キャンパスツアーとして、留学生の皆さんと交流しながら、北大構内の札幌農学校第2農場などを散策し、北大のボランティアガイドの皆さんから説明を受けました。

次に、「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の第2期生で、オーストラリア（タスマニア）に留学した経験のある北大生の立岩さんから、英語を交えて、自身の留学経験についてプレゼンしていただきました。

参加生徒からは、「留学する際、何を目的にして行ったら良いか分かった」、「何事も粘り強く取り組むことが大切だと学んだ」といった感想がありました。



【立岩さんによるプレゼンの様子】

2日目・10月24日（木）

最初に、北大大学院生の渡辺さんから、中国とカナダの2カ国での留学経験について、英語を交えて、プレゼンしていただきました。

参加生徒からは、「発表を聴いて、自分の過ごし方に少しの後悔を覚えた。これからはもっと自分のしたいことに全力で取り組みたい」、「英語以外にもスキルを持つことの強みや必要性を感じる事ができた」といった感想がありました。



【渡辺さんによるプレゼンの様子】



【留学生との交流の様子】

次に、外国人留学生が日本語を学ぶ授業に参加しました。参加生徒は留学生とお互いに自己紹介をして交流するほか、外国語としての日本語を学びました。

参加生徒からは「英語にばかり気をとられていたが、日本語も奥が深いことを再確認できた」、「日本人以上に、留学生は日本の文化などに興味を持ち、親しんでくれていることを学んだ」といった感想がありました。

午後からは、留学生が受講する多文化交流科目の授業に参加し、北大の日本人学生や外国人留学生とディスカッションし、意見をまとめ、プレゼンをしました。

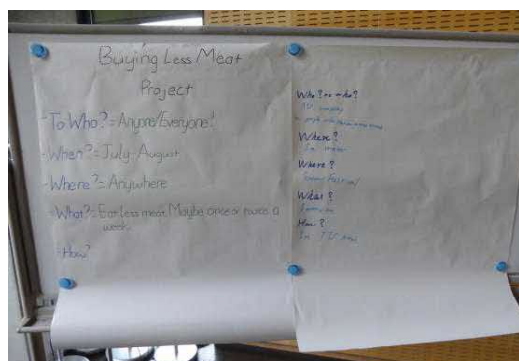
参加生徒からは、「高校生と大学生の視点の違い、互いの価値観、留学生などの他文化の考えを交流できて面白かった」、「世界中の人々の価値観の違いに改めて気づかされたとともに、価値観の違いにより生じる問題を考えるいいきっかけとなった」といった感想がありました。



【参加生徒によるプレゼンの様子】



【グループワークの様子】



【グループワークの成果】

次に、音更高校の小竹先生を講師に迎え、SDGsについて、英語での講義を受けるとともに、留学生と一緒に、グループワークを行いました。

参加生徒からは、「思ったことを瞬時に英語にすることの難しさと同時に楽しさ・面白さを感じられた」、「今日の社会における国際問題を身近な出来事に関連付けることで、様々な考察ができた」といった感想がありました。

その後、夕食をはさんで、国際インターンシップ報告会に参加し、実際に海外でインターンシップを行った北大生の体験談を聞きました。

参加生徒からは、「海外で言語の壁を越えて仕事をする体験ができるのは自分にとってすごくプラスになるもの大きいと思った。」といった感想がありました。

3日目・10月25日（金）

最終日は、北大大学院のアリレザ・ビレサンさんに、日本での生活や北大で研究しているロボット工学について、英語でプレゼンしていただくとともに、研究室を訪問させていただきました。研究室では、モーションキャプチャーの実演や説明をしていただきました。

参加生徒からは、「海外の大学で学ぶ意欲が確実なものとなった」などの意見があり、英語の専門用語は難しかったようですが、大変、有意義な時間となりました。



【研究室紹介の様子】

その後、3日間のまとめとして、リフレクションを行い、参加生徒1人1人から感想や今後の意気込みを述べていただきました。

主なものとしては、「あつという間に時間が過ぎてしまい、もっと長く学びたかった」、「留学に対する考え方が変わり、行ってみたいという気持ちが高まった」、「多くの留学生とふれあうことで自分の留学について改めて考えるいいきっかけとなった。何を学ぶために自分でどう動くのかといった主体性や挑戦の大切さを感じた」といった感想が出されました。

閉会後には、参加生徒達で自主的に記念撮影をするなど、他校からの参加生徒とも仲良くなれ、生徒達には大変有意義なプログラムとなりました。